TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　495語

The Story of the First Whitefish

さいしょのホワイトフィッシュのおはなし

Florence Holbrook（1902年の本）　**原文そのまま**　朗読：Raybrite

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　いじわるな魔女からにげたいふたりの男の子。みずうみのツルが運んでくれますが、あとから魔女もやってきて……。

One day a crane was sitting on a rock far out in the water, when he heard a voice say, "Grandfather Crane, Grandfather Crane, please come and carry us across the lake." It was the voice of a child, and when the crane had come to the shore, he saw two little boys holding each other's hands and crying bitterly.

"Why do you cry?" asked the crane, "and why do you wish to go across the lake, away from your home and friends?"

"We have no friends," said the little boys, crying more bitterly than ever. "We have no father and no mother, and a cruel witch troubles us. She tries all the time to do us harm, and we are going to run away where she can never find us."

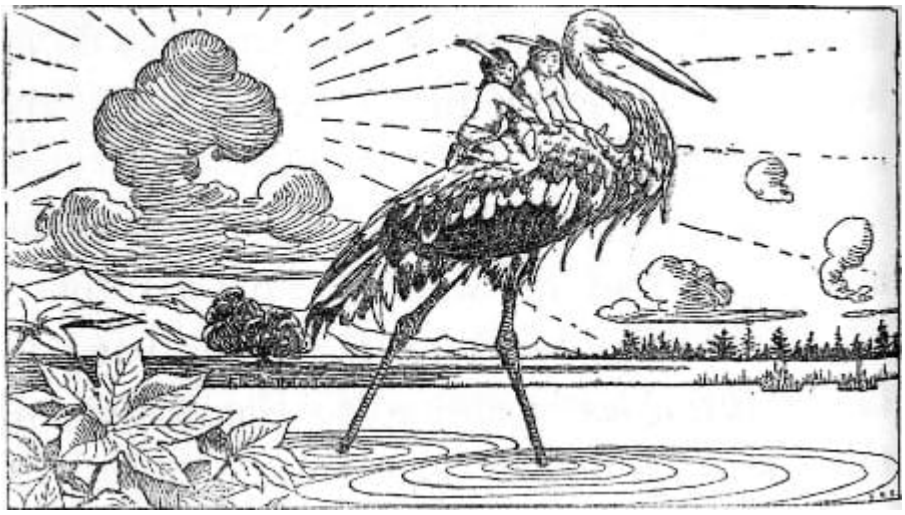
"I will carry you over the lake," said the crane. "Hold on well, but do not touch the back of my head, for if you do, you will fall into the water and go to the bottom of the lake. Will you obey me?"

"Yes, indeed, we will obey," they said. "We will not touch your head. But please come quickly and go as fast as you can. We surely heard the voice of the witch in the woods."

It really was the witch, and she was saying over and over to herself, "I will catch them, and I will punish them so that they will never run away from me again. They will obey me after I have caught them."

The crane bore the two little boys gently to the other shore, and when he came back, there stood the witch.

"Dear, gentle crane," she said, "you are so good to every one. Will you carry me over the lake? My two dear children are lost in the woods, and I have cried bitterly for them all day long."



The spirit of the lake had told the crane to carry across the lake every one that asked to be taken over; so he said, "Yes, I will carry you across. Hold on well, but do not touch the back of my head, for if you do, you will fall into the water and go to the bottom of the lake. Will you obey me?"

"Yes, indeed, I will," said the witch; but she thought, "He would not be so timid about letting me touch the back of his head if he were not afraid of my magic. I will put my hand on his head, and then he will always be in my power." So when they were far out over the lake, she put her hand on the crane's head, and before she could say "Oh!" she was at the bottom of the lake.

"You shall never live in the light again," said the crane, "for you have done no good on earth. You shall be a whitefish, and you shall be food for the Indians as long as they eat fish."

ある日、一羽のツルが、水の上の遠くにある岩にとまっていると、声が聞こえました。「ツルおじいさん、ツルおじいさん、どうかぼくたちをみずうみのむこうへ運んでください。」それは子どもの声でした。ツルが岸へ来てみると、小さな男の子がふたり、手をつないで、わあわあ泣いていました。

「どうして泣いているんだい？」とツルはたずねました。「どうして家や友だちからはなれて、みずうみのむこうへ行きたいんだね？」

「ぼくたちには友だちがいないんです」と男の子たちは言って、前よりもっとはげしく泣きました。「お父さんもお母さんもいなくて、いじわるな魔女にいじめられているんです。魔女はいつも、ぼくたちにひどいことをしようとするので、ぜったいに見つからないところへにげるんです。」

「みずうみのむこうへ運んであげよう」とツルは言いました。「しっかりつかまっていなさい。でも、わたしの頭のうしろにはさわってはいけないよ。さわったら、水の中に落ちて、みずうみの底までしずんでしまうからね。言うとおりにできるかい？」

「はい、言うとおりにします」とふたりは言いました。「頭にはさわりません。でも、おねがいです、早く来て、できるだけ早く行ってください。森の中で、たしかに魔女の声が聞こえたんです。」

それは本当に魔女でした。魔女はくりかえしひとりごとを言っていました。「つかまえてやる。そして、二度とにげないように、ばつをあたえてやる。つかまえたら、言うことを聞くようになるさ。」

ツルはふたりの男の子をむこう岸までやさしく運びました。もどってくると、そこに魔女が立っていました。

「やさしいツルさん」と魔女は言いました。「あなたはだれにでも親切ですね。わたしをみずうみのむこうへ運んでくださらない？かわいいふたりの子どもが森でまいごになって、一日じゅう泣いていたのです。」

みずうみのせいれいから、むこうへ行きたいとたのむ人はだれでも運ぶように言われていたので、ツルは言いました。「いいですよ、運んであげましょう。しっかりつかまっていなさい。でも、わたしの頭のうしろにはさわってはいけません。さわったら、水の中に落ちて、みずうみの底までしずんでしまいますよ。言うとおりにできますか？」

「ええ、もちろんですとも」と魔女は言いましたが、心の中ではこう思っていました。「わたしの魔法がこわくなければ、頭のうしろにさわられるのをこんなにいやがるはずはない。頭に手をのせてやろう。そうすれば、ツルはずっとわたしの思いどおりだ。」そこで、みずうみのまん中あたりまで来たとき、魔女はツルの頭に手をのせました。すると「あっ！」と言うまもなく、魔女はみずうみの底にしずんでいました。

「おまえは二度と光の中でくらすことはない」とツルは言いました。「地上でよいことを何ひとつしなかったからだ。おまえはホワイトフィッシュという魚になり、アメリカせんじゅうみんの人たちが魚を食べるかぎり、ずっとその食べ物になるのだ。」

たんご と クイズ　さいしょのホワイトフィッシュのおはなし

crane ツル	**lake** みずうみ	**witch** 魔女
rock 岩	**head** 頭	**whitefish** ホワイトフィッシュ（白い魚）
obey 言うことを聞く		

Q1 男の子たちは、だれからにげていた？

① いじわるな魔女　② クマ　③ 王さま

Q2 ツルが「さわってはいけない」と言ったところは？

① つばさ　② あし　③ 頭のうしろ

Q3 約束をやぶった魔女はどうなった？

① ツルになった　② ホワイトフィッシュという魚になった　③ 鳥になってとんでいった

こたえ

Q1 ①　ふたりは、いじわるな魔女にいじめられていたので、見つからないところへにげようとしていました。

Q2 ③　ツルは、頭のうしろにさわったら、水に落ちてみずうみの底までしずんでしまうと言いました。

Q3 ②　約束をやぶった魔女はみずうみの底にしずみ、ホワイトフィッシュという魚になりました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。
挿絵：(1902 edition)（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Raybrite（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。